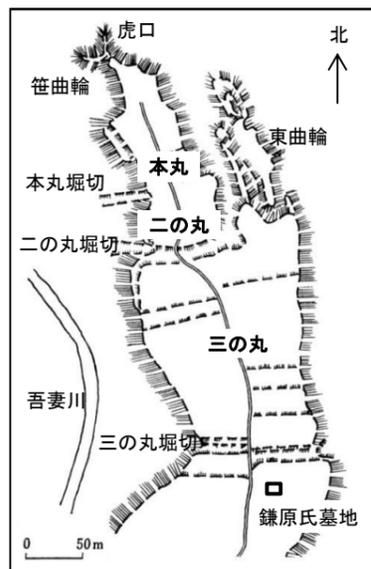


## ■真田氏・鎌原氏に関する年表

| 時代   | 西暦    | 年号    | 出来事   |
|------|-------|-------|---|
| 奈良   | 718年  | 養老2年  | 修験者浄定(きよさだ)が加賀国白山寺より白山大権現を四阿山山頂、花童子の宮に勧請(かんじょう)する。    |
| 鎌倉   | 1194年 | 建久5年  | 滋野一族(海野氏、望月氏、浦野氏など)が三原庄(孺恋村)へ移住する。                    |
| 室町   | 1397年 | 応永4年  | 三原庄を支配する豪族下屋氏(海野一族)の子孫にあたる鎌原氏が鎌原城を築城する。               |
|      | 1468年 | 応仁2年  | 海野一族の滋野景幸(羽尾景幸)が孺恋村今宮社領を寄進する。(今井地区滝ノ上入口)              |
|      | 1538年 | 天文7年  | 常林寺(曹洞宗)が鎌原幸重氏により開山される。                               |
|      | 1557年 | 弘治3年  | 京都東寺の僧、一条院大法上人が一乗山(真言宗)を創建する。※後に長盛寺、現在の無量院(曹洞宗)       |
|      | 1560年 | 永禄3年  | 鎌原氏、武田信玄と会見、信玄吾妻郡に進入する。                               |
|      | 1560年 | 永禄3年  | 羽尾氏らが鎌原の砦を攻める。鎌原氏は常林寺の住職を使者として降伏する。(鎌原羽尾合戦)           |
|      | 1562年 | 永禄5年  | 武田信玄が鎌原氏と羽尾氏(羽根尾城主)の境界を決める。                           |
|      | 1562年 | 永禄5年  | 鎌原氏信州佐久へ退去し、羽尾氏が鎌原城に入る。                               |
|      | 1563年 | 永禄6年  | 羽尾氏が万座温泉で休養中に鎌原氏が鎌原城を奪還する。羽尾氏は信州高井へ落ちる。               |
|      | 1563年 | 永禄6年  | 真田幸隆、鎌原氏が岩櫃城を攻め、城主斎藤氏は越後に落ちる。鎌原氏が羽尾氏の館を奇襲する。          |
| 安土桃山 | 1575年 | 天正3年  | 長篠の合戦で鎌原重澄(筑前守)が真田幸隆の長男、信綱と次男、昌輝と共に戦死する。              |
|      | 1590年 | 天正18年 | 真田昌幸が鎌原城を訪れる。   |
|      | 1590年 | 天正18年 | 真田信幸が一乗山(現在の無量院)を訪ね真田家安泰を祈願、十石の領地寄進、六文銭を寺紋として付与する。    |
| 江戸   | 1600年 | 慶長5年  | 真田昌幸、信繁(幸村)親子が「犬伏の別れ」の帰路に孺恋村を通過して上田へ向かう。              |
|      | 1615年 | 元和元年  | 江戸幕府の一国一城令により鎌原城破却する。                                 |
|      | 1662年 | 寛文2年  | 大笹関所が沼田藩主の真田信利(伊賀守)によって創建される。                         |
|      | 1701年 | 元禄14年 | 大笹と信州の弥津が四阿山の入会権について争い幕府が山頂中央を境界としたため上州の宮と信州の宮の二つになる。 |
| 明治   | 1852年 | 嘉永5年  | 大笹登城に抜け道の碑が建立される。                                     |
|      | 1869年 | 明治2年  | 大笹関所廃止される。  |



### ■鎌原城について

鎌原城は、南北約400m、東西約150mに広がる総面積約3万6千㎡の城域を持っています。南から、三の丸、二の丸、本丸、東曲輪(ひがしぐるわ)、笹曲輪(ささぐるわ)の五郭に分かれており上城、下城、丸、陣場など城に関係する地名が残っています。堀切は今では道や畑になっていますが、崖縁に堀型が残っている所もあります。鎌原城の構造は不明ですが、中規模の平城であったとされています。

### ■城主 鎌原氏

鎌原城は、応永4(1397)年の築城と伝えられ、元和元(1615)年徳川幕府の「一国一城令」によって破却されるまでの218年間、鎌原氏の居城とされていました。鎌原氏は滋野(しげ)の源氏、海野(うんの)の氏一族で、平安時代末期より三原庄(孺恋村)を支配する豪族下屋氏の末裔です。三原庄を開拓した下屋将監幸房(しもやしやうげんゆきふさ)の子孫幸兼(ゆきかね)が、浅間山麓の鎌原に居を構え、鎌原姓を名乗ったのが始まりとされています。戦国時代の武田信玄による吾妻侵攻の際には、いち早く武田方につき鎌原城は武田氏の吾妻侵攻の拠点となりました。鎌原氏は天和元(1681)年の沼田藩改易後は、大笹関所(せきしよ)の関守となり、明治元(1868)年まで8代187年間、関番を務めました。

### ■真田道

真田氏と武田軍が上州を攻略するうえで鳥居峠の道は軍事用として重要でした。また、善光寺から江戸へ向かう一路線として仁礼街道(信州では大笹街道)があり、上田、追分を通る道よりも1日早く着ける近道であったことから大笹宿は賑わいました。古永井から鳥居峠へ向かう途中、国道の右側に残る古道には、「百番供養塔 右は仁礼、左は上田」という石塔があります。田代から大笹へは、現在の田代湖を通り、大笹峠を越えて長井川原に下り、関所へ向かうか、抜け道である登城方面へ上るか分かれていました。登城には「抜け道の碑」があります。

### ■四阿山の山岳信仰

古くから修験者の修行の場、また真田一族の守護神の山として崇拝されていた四阿山。上州側からは古永井経由の参拝道がありました。



孺恋村役場 観光商工課



〒377-1692 群馬県吾妻郡孺恋村大字大前110  
TEL: 0279-96-1515(直通) FAX: 0279-96-0516  
孺恋村HP: <http://www.vill.tsumagoi.gunma.jp>

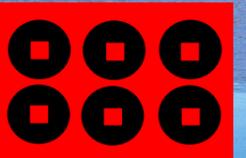
# 真田氏ゆかりの地めぐりマップ



## 真田氏上州攻略の拠点 孺恋村

平成28年NHK大河ドラマ「真田丸」放映

真田一族が活躍した戦国の世、今からおよそ450年前  
遠い昔の孺恋村を訪ねてみませんか!

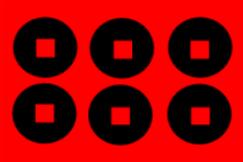


平成28年NHK大河ドラマ  
真田丸 上州孺恋

真田一族守護神の山「四阿山」



孺恋村は、真田一族にとって上州侵攻の軍事拠点とされていました。この地から羽根尾城(長野原町)や岩櫃城(東吾妻町)、嵩山城(中之条町)などを攻略し、信州上田から上州吾妻・沼田方面へ領地を拡大していきました。孺恋村には、鎌原城址や大笹関所跡、無量院の観音堂など真田一族と深い関係を持つ史跡があります。また、真田一族の守護神の山として崇拝されていた四阿山の他、真田氏の隠し湯とされていた鹿沢温泉、その周辺は真田忍者修行の地としても知られています。真田氏ゆかりの地をめぐって古き孺恋村を発見してみましょう。



平成28年NHK大河ドラマ  
真田丸 上州嬬恋

# 真田氏ゆかりの地めぐりマップ




**ぬけみちのひ**  
**⑧ 抜け道の碑** 関所手形の無い通行人は取締りの厳しい大笹関所をさけるため危険を覚悟し抜け道を使った。手形の無い通行人のために大笹村の俳人が「揚げひばり 見聞てここに 休ふて 右を仏の 道としるべし」と石に刻み、大笹関所をさけて善光寺に抜ける道を暗示させたと言われる。



**⑨ 真田幸村にまつわる伝説**  
戦国時代、真田幸村の第2夫人が大笹宿を通り上田城へ向かう途中、この付近の川で水死され、ここに埋葬されたという伝承がある。この話を後世に残すべく、住民によって松の木が植えられ「長寿の松」として長きに渡り親しまれていたが、現在では松も枯れ、看板を残すのみとなっている。



**かざわおんせんきょう**  
**⑩ 鹿沢温泉郷** この付近を支配していた真田一族の隠し湯と言われている。近くの角間山では真田幸村が山頂で天文を研究し、軍備を考えていたという話や角間渓谷から鹿沢温泉周辺にかけて忍びの修行の地であったとされている。



**あずまやさん**  
**⑬ 四阿山** 日本百名山の一つで標高は2,354m。古くから山岳信仰の対象となり真田一族も四阿山を守護神としていた。山道には信者たちによって108の祠が寄進され、現在でも50程度の祠を見る事ができる。また、山頂には真田町(上田市)を向く信州の宮と嬬恋村を向く上州の宮の二つの祠がある。



**げどうじのみやあと**  
**⑫ 花童子の宮跡** 四阿山山頂の白山権現を祀る奥ノ院の中社として建てられた。長野側の里宮は山家神社、群馬側は今宮権現である。当時は間口三間、奥行二間の社殿や修験者の籠堂などがあり、ここで加持祈禱を行っていたとされる。また、花童子の宮から先は女人禁制とされていた。



**かんばらじょうし**  
**① 鎌原城址** 応永4年(1397)築城とされ、鎌原氏が居城していた。鎌原氏は戦国時代、真田氏の家臣で、甲州の武田信玄に仕えた武将である。後の江戸時代には沼田藩真田氏の家老となる。城跡には堀切り、城主墓地を残す他、附近には城に関係ある地名が残っている。



**じょうりんじ**  
**③ 常林寺** 隣町の長野原町応桑地域にある曹洞宗の寺。鎌原氏が開基したことから、寺紋は六文銭である。当時は修験道が中心であったが、禪宗が武士階級の中で信仰され始めると常林寺のような寺が次々と開基された。その後、禪宗は村人の葬祭や仏の信仰行事を通して村内に広まっていた。



**いまみやはくさんごんげん**  
**② 今宮白山権現** 真田一族が信仰していた白山権現を祀っている。嬬恋村には白山関係の神社がいくつかあったが、今宮社はその代表的なものであったとされる。当時は境内が広く、街道筋にあったので旅人がここに立ち寄り、一服していた。



**つまごいきょうどしりょうかん**  
**④ 嬬恋郷土資料館** 天明3年の浅間山大噴火に起因する「土石なだれ」によって埋没した鎌原村(現嬬恋村鎌原地区)から発掘された品々が展示されている。その他にも嬬恋村が誇るキャベツの歴史について紹介している。  
■開館時間: 9時~16時30分  
■休館日: 水曜日(祝日の場合は木曜日) ただし、7・8月は無休  
■TEL: 0279-97-3405



**おおざさじゆく**  
**⑥ 大笹宿** 大笹関所を中心として宿場が形成され多くの旅人で賑わった。文化文政の時代が最も栄え、人口1,215人、旅籠、酒屋、桶屋、大工など様々な職業があった。その中でも旅籠は11軒ほどあり、馬方や駕籠屋を兼業していたという。現在の大笹地区でも宿場町だった当時の雰囲気を感じることができる。



**むりょういん**  
**⑤ 無量院** 常林寺(曹洞宗)の末寺で山号を吾妻山と称する。天正18年(1590)年吾妻地方の領主だった真田信幸が立ち寄り寺領十石と六文銭の寺紋を寄進したとされる。六文銭が壁面に掲げられた観音堂がある。



**おおざさせきしよあと**  
**⑦ 大笹関所跡** 寛文2年(1662)に沼田藩主真田信利が建設した関所。上州と信州を結ぶ信州街道(大笹街道)に設置され、軍事的・戦略的に重要な関所だったとされる。明治元年(1868)まで使われており、現在残されている門扉の建築部材は関所当時のものである。

## おすすめコース

- スタート** → **② 今宮白山権現** → **③ 常林寺** → **④ 嬬恋郷土資料館** → **① 鎌原城址** → **⑤ 無量院** → **⑦ 大笹関所跡** → **⑧ 抜け道の碑** → **⑨ 幸村にまつわる伝説** → **⑩ 鹿沢温泉郷** → **⑫ 花童子の宮跡** → **⑪ 鳥居峠** → **スタート**
- ② 今宮白山権現** 車10分 国道を西へ進み、嬬恋交番前を左折する。
  - ③ 常林寺** 車5分、芦生田地区から鎌原集落へ坂を上がると道が最短ルート。
  - ④ 嬬恋郷土資料館** 車3分、三の丸跡地に駐車場がある。本丸跡まで徒歩3分。
  - ① 鎌原城址** 車15分、大笹の信号を左折し大笹公民館の左側にある駐車場を利用する。
  - ⑤ 無量院** 車2分、国道に戻り大笹の信号を左折、道路脇にある。駐車場あり。
  - ⑦ 大笹関所跡** 車3分、すぐ左折し坂道を登りY字路を右に入った所にある。
  - ⑧ 抜け道の碑** 抜け道の碑と同じ場所。伝説についての看板がある。
  - ⑨ 幸村にまつわる伝説** 車15分、国道に戻り左折、鹿沢温泉方面へ左折し湯の丸温泉も楽しめる。
  - ⑩ 鹿沢温泉郷** 駐車場から車15分、汗をかいた後は真田氏の隠し湯、鹿沢温泉がおすすめ。
  - ⑫ 花童子の宮跡** 鳥居峠から駐車場まで車8分 徒歩40分、登山装備必要。ついでに⑬四阿山の登山がおすすめ。
  - ⑪ 鳥居峠** 真田一族の守護神の山「四阿山」、花童子の宮跡「トレッキングコース」。

**とりとうげ**  
**⑪ 鳥居峠** 戦国時代の鳥居峠は真田一族が上州攻略のために頻りに利用した。その後沼田城主真田信之が上田、松代を領有すると沼田との連絡のために伝馬制度が整備され、峠道が重要視されるようになった。また、信州から江戸に菜種油が盛んに運ばれた事から峠とも呼ばれる。